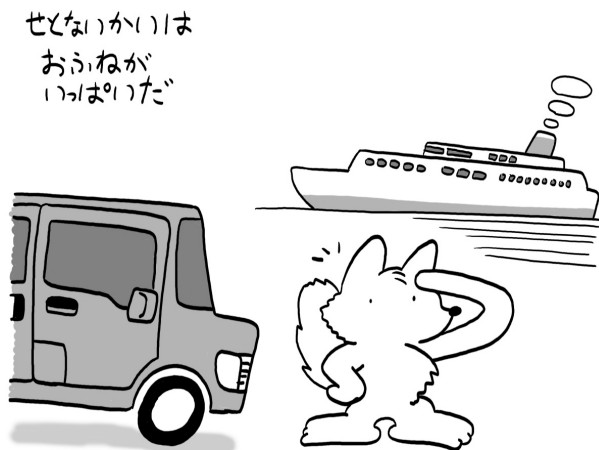


まえがき

ほとんどの方にははじめましてになると思います。普段はフェリーに乗るたびにいもげで絵日記を書いている「」ですが、今回は学園祭二度目の挑戦ということでホームグラウンドである愛媛のフェリーについての本を書くことにしました。

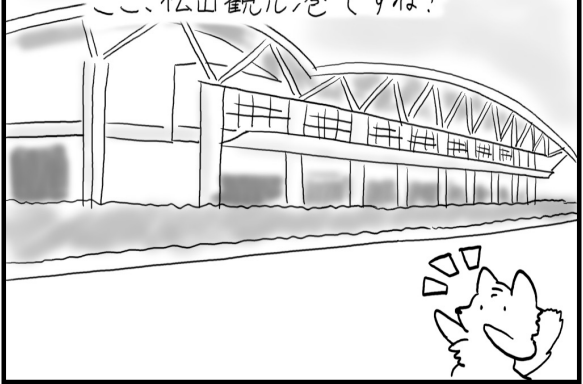
前は九州からフェリーで蒲田に上京し、その船内の様子をコピー本にするという我ながら挑戦的な本で多くの方に手に取っていただけるという結果を残すことができたのですが、今回も多くの「」、そしてとしあきの皆さんに見ていただけるのか、それとも前回は単なるビギナーズラックだったのか、今から楽しみでもあり不安でもあります。



愛々で
フェリーといえは!



そう!
ここ、松山観光港ですね!



昔は大阪や北九州に行く夜行便が
発着していましたが、今もう広島行き
の昼行便だけになってしまいました



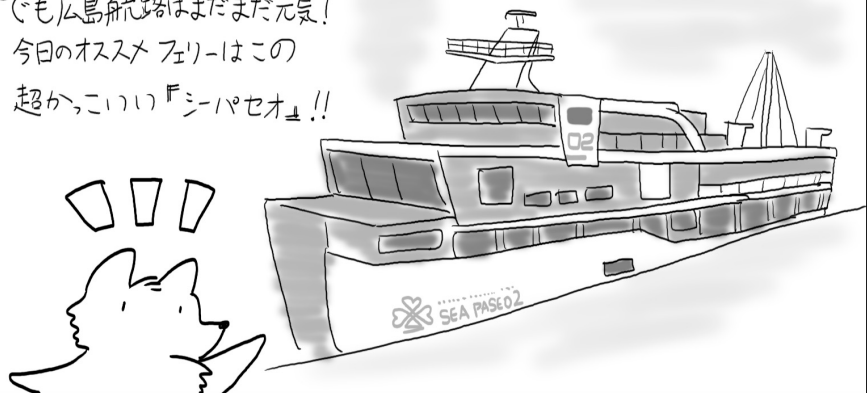
アレハブの
待合室

もう誰も
使わない

…さみしい話ですね



でも広島航路はまだまだ元気!
今日のオススメフェリーはこの
超からこいつ『シーパセオ』!!



OZASEKI

この船は
少数グループ向けに
席が細かく
区切られてるのが
特徴で




エリア毎に
いろいろなスタイルで
船の時間を
楽しめます



KOAGARI

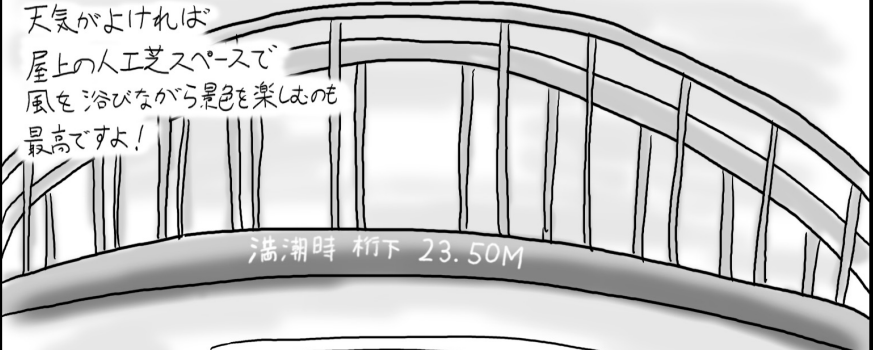
その分私の好きな昔ながらの
雑魚寝スペースは
大幅にへってるわけ
ですが




そこはまあ
良し悪しして〇j

GORONE

天気がよければ
屋上的人工芝スペースで
風を浴びながら景色を楽しむの
最高ですよ!




満潮時 柵下 23.50M



音戸の瀬戸

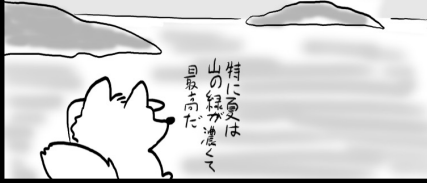
あと、
船内売店でたのめる
うどんやカレーを
海を眺めながらいただくのも
いいゾ!





だいたい3時間の船旅は
エリアごとに見応えのある景色なので
ぜひ屋上デッキで360度タンクしてほしい!

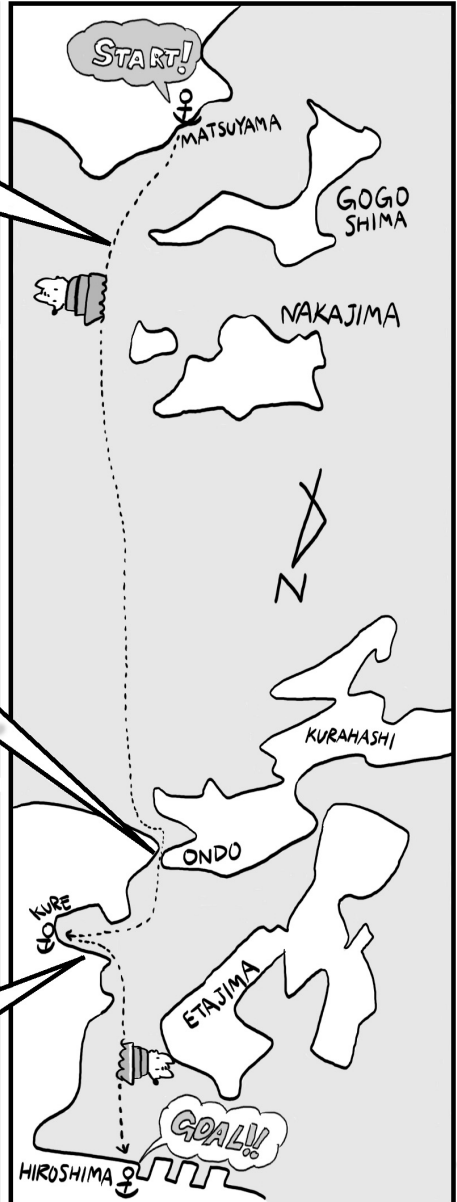
松山を出港してしばらくは
青い空、青い海、緑の島の
おだやかで鮮やかな色の景色だ!

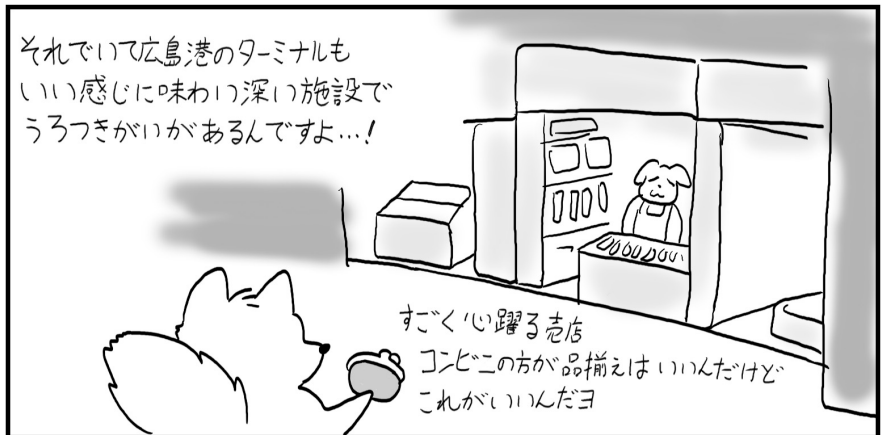
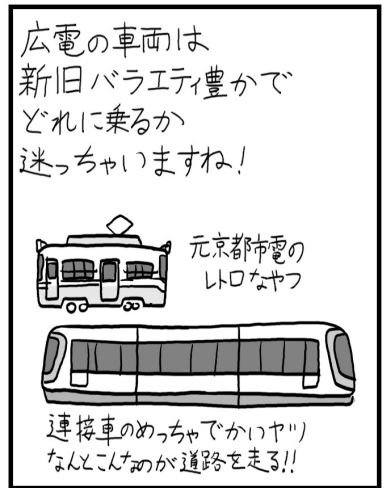
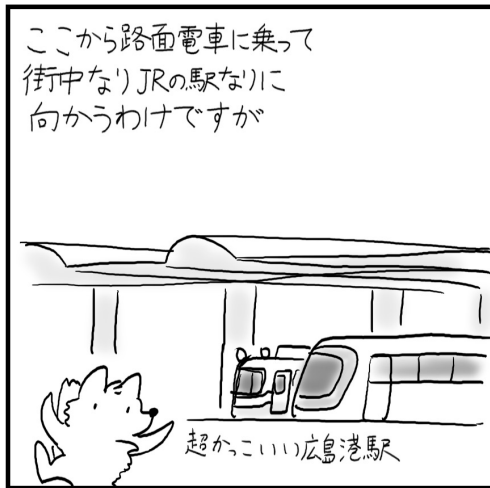


この航路で一番の見どころ!
目の前まで町がせまる水路をゆっくり進むぞ!



呉の工業地帯だ!
自衛隊の艦とか直デカイコンテナ船とか
いるよ!





瀬戸内海汽船「シーパセオ」

松山に住んでいると一番身近なフェリーは松山観光港と対岸の広島港を結ぶ高速船「スーパージェット」と通常の「クルーズフェリー」だと思います。そしてクルーズフェリーのうち 10 往復中の 5 往復が 2019 年就航の新型船「シーパセオ」です。白と濃紺のツートンの超格好いデザイン、いいですよね！

シーパセオはせいぜい 5 人以下程度の少人数グループ向けに細かく区切られたスペースが多く配置されていて、開放された船室内でもある程度のプライベート空間が演出されているのは非常に良いものなのですが、特に指定席ではないので「いい場所」が早いものがちの取り合いになるのは良し悪しなところはありますね……。

一方、この船は海を移動する公園をイメージしてデザインされたとのこと。で室外のスペースも充実しています。船体中央付近に円形の広場のように確保されたスペース、また、屋上スペースには地べたに座れる人工芝のスペースや公園の東屋をイメージしたベンチがあったりします。

まあ実のところ、人工芝は潮風で傷みにくいようにする都合か硬めの素材であまり快適ではないのですが…さておき、潮風と空と海を堪能できる開放感は随一だと思います。



屋上には人工芝のスペースやベンチ (周辺の筒型の建物) があります

この航路は約3時間の船旅の中でも色々な味わいの景色があるのもいいところですよ。

松山側から見ると、まずはいつきなだ斎灘の海に浮かぶ島々の風景を楽しめます。

そして両側に迫る陸地に挟まれて徐行しながら進む音戸の瀬戸を通り過ぎると呉の工場群を横切ります。ここは海上自衛隊の艦船や工場に停泊している巨大な貨物船も見どころですよ。

数年前まで ONE ジャパンの巨大コンテナ船が建造中で、その信じられないような巨大な船体を見上げることができたのですが現在は既に完成して外洋に旅立っていったようです。



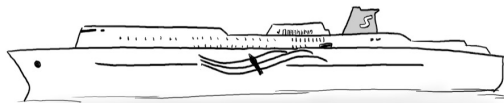
建造中の頃の「ONE INSPIRATION」

寄港地の呉を出発するともうあとは目的地の広島へ向かって一直線です。右手に呉の町並みを眺めつつ、左手の江田島や似島からの島嶼便のフェリーと並走しながら広島港へと向かいます。

広島港からは路面電車に乗って乗換無しで JR 広島駅や紙屋町 (広島市の中心部) に出ることができます。島嶼部と結ぶ要所になっているのもあり、船が公共交通機関の一部としてしっかり結合している感があるのは観光港が若干隔離気味な松山民から見るとちょっと羨ましいところはありますね。

愛媛のフェリーの
大本命といえは？

そう！
オレンジフェリーですね！



大阪南港発着なので
インテックス大阪のイベントに
行ったときはよくお世話に
なっていました



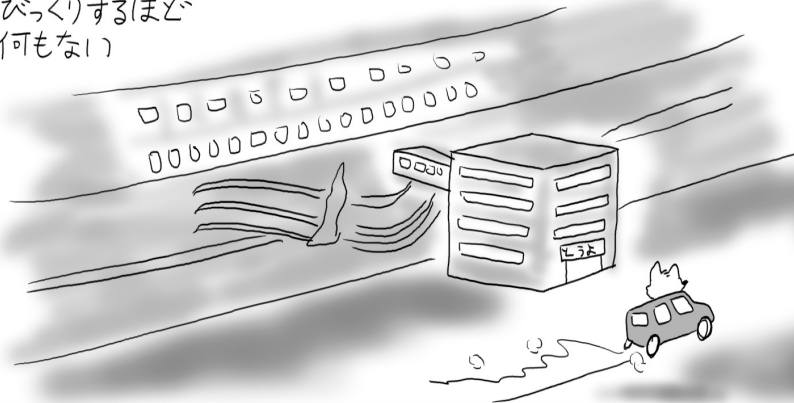
先代の船は
雑魚寝席が
2等室のメインでした

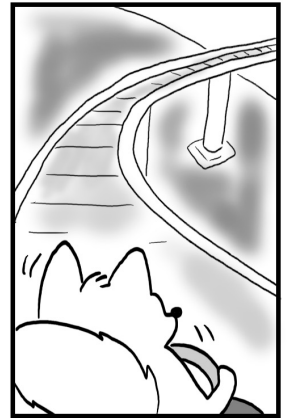
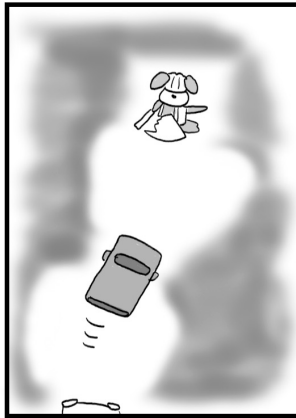
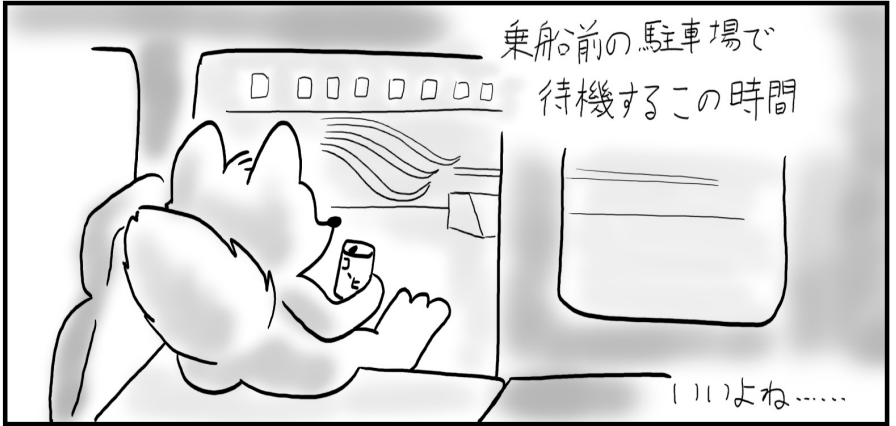
愛媛県側の東予港は
松山市内からだとちょっと遠いのが
難ですね
送迎バスはあるにはありますが
基本はマイカーです

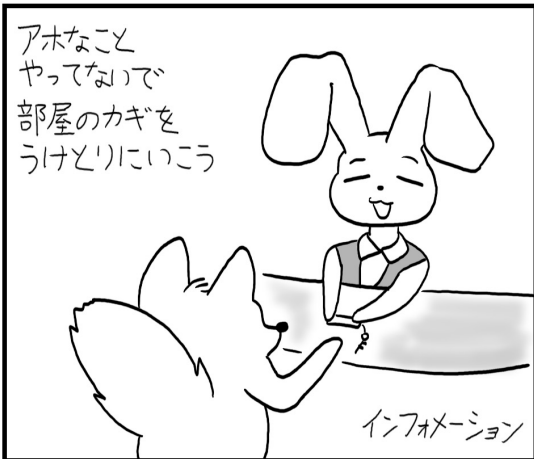
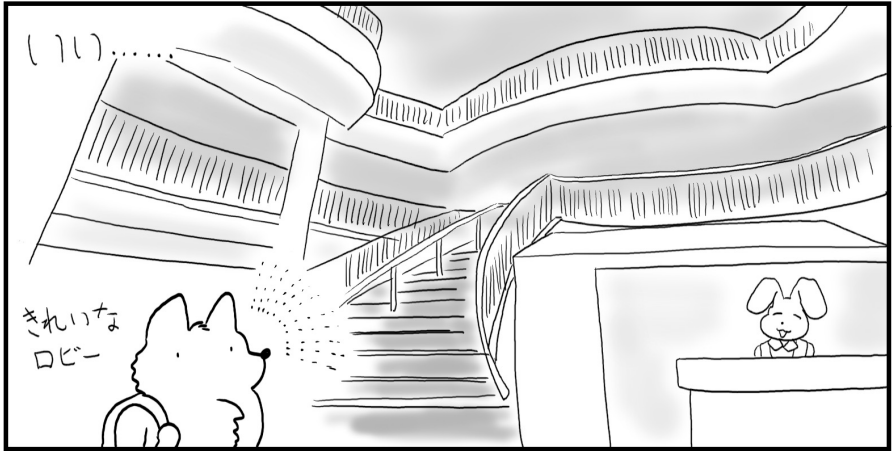
マイ
ナイス
エブイ

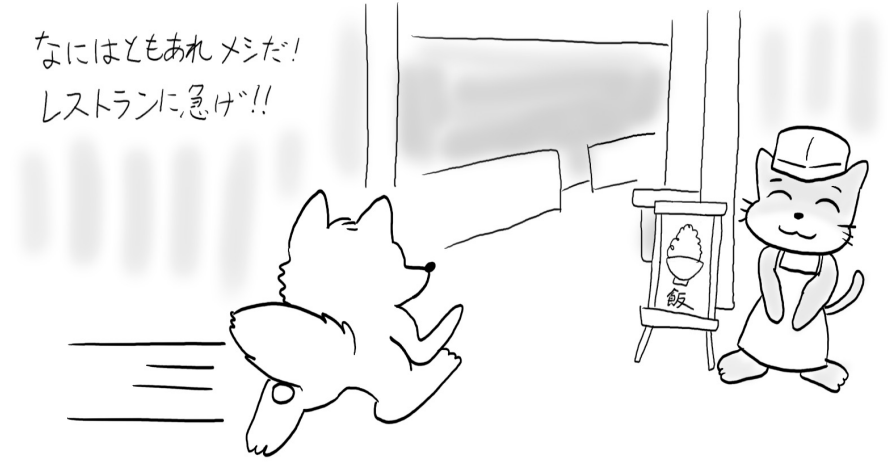
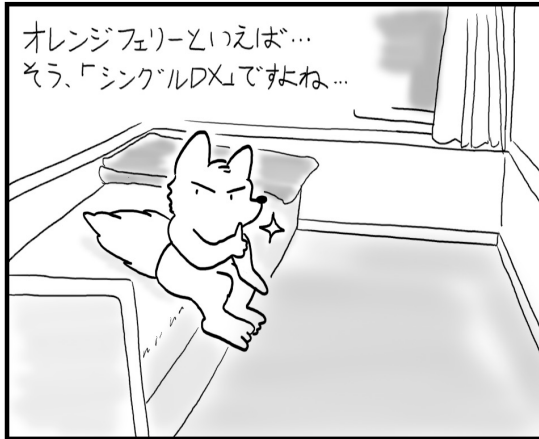


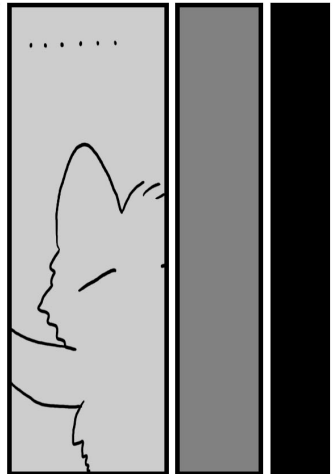
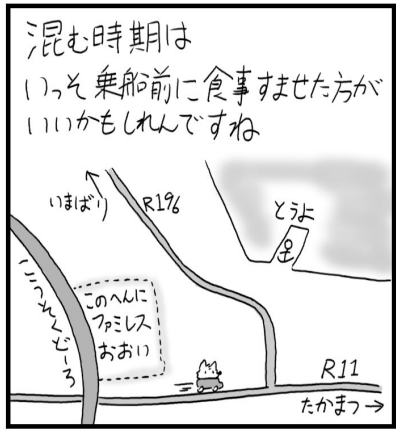
ちなみに、港のまわりは
びっくりするほど
何もなし

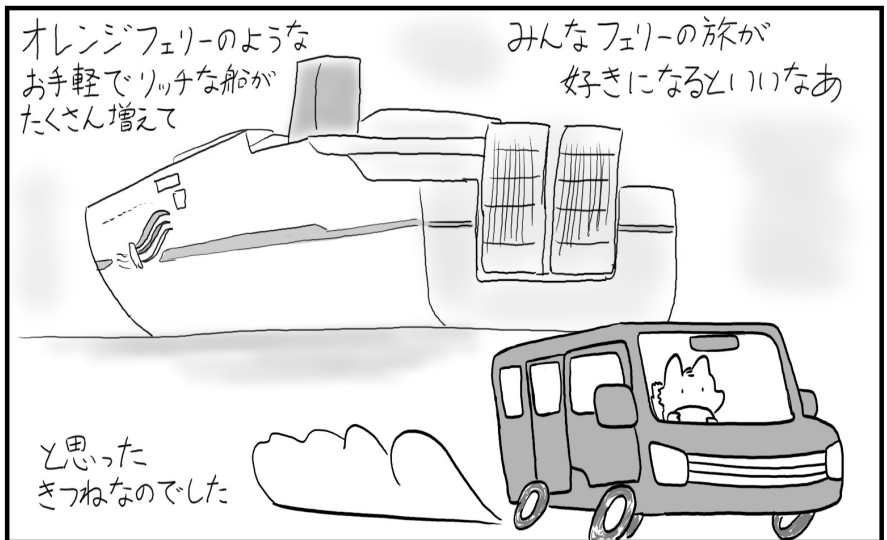
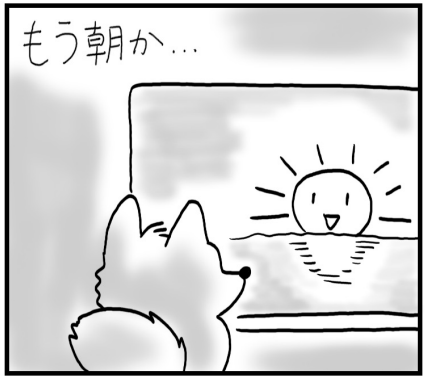
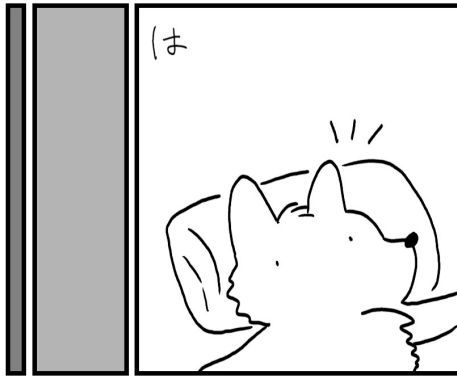








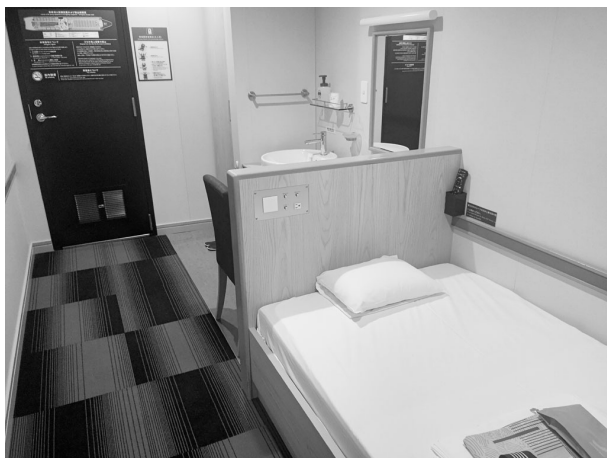




四国開発フェリー「おれんじおおさか／えひめ」

愛媛県北東部の東予と大阪南港を結ぶ夜行フェリーです。

現在就航している2隻は2019年に新造された船で、従来の雑魚寝席や相部屋を廃して全席個室を他社に先駆けて導入した点が最大の特徴です。中でも、漫画の中でも描いている一人用個室「シングルデラックス」は窓のある船体外側に配置された一人用個室という豪華仕様でありながら最安グレードの「シングル」から2000～3000円程度(シーズンによります)という手頃な追加料金もお手頃なので、一人旅の際には是非利用していただきたいです。



広くて快適なシングル DX

乗船する港は大阪側はニュートラム(大阪の新交通システム)から駅直結なのに対して愛媛側は東予^{とうよ}という松山からは若干離れた場所になります。トラックで利用する場合は松山、今治、そして新居浜方面のいずれからでもアクセスが良い場所なのですが観光で利用する場合は市街地から離れているので送迎バス、あるいはマイカーで頑張って移動する面倒さはちょっと否定できません。

とはいえ、バスの出発は比較的遅い時間なので、街中で観光を楽しんで夕食まで済ませる時間も十分に確保できるというのはありがたいです……。

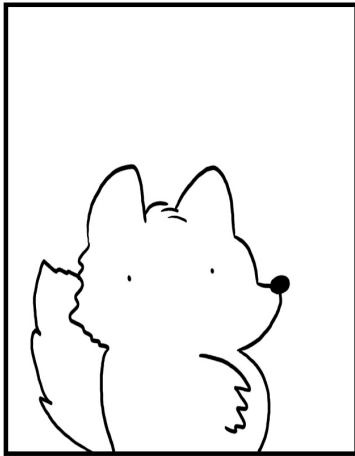
船内の最大の楽しみはメシ!そしてフロ!なわけですが、レストランは 22 時出港の 22 時 30 分オーダーストップという流石にちょっとどうなのよ?と思うスケジュールなのは改善を願いたいところです。自動車なら早めに乗船できれば余裕があるのですが、送迎バスだと出港直前の乗船なので混んでたら飯食えないんだぜ?



愛媛といえば鯛めし

さておき、メシ、フロとくれば最後は寝る! ですね。すぐに寝てもいいですが、大阪行の場合概ね 0 時半くらいに瀬戸大橋を通過するのでそれを眺めてからやり遂げた気分で寝るのもいいものです。シングル DX は外向けの個室なので、橋を見やすいように部屋の証明を落として一人じっくり景色を楽しむということも出来ます。素晴らしい。

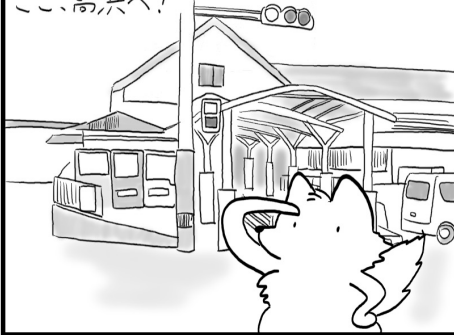
そして目覚めればもう大阪は目の前、朝食をすませればもう下船準備です。慌ただしく人が集まるロビーで着岸を待ちつつ、これから始まる今日の旅路に思いを巡らせます。



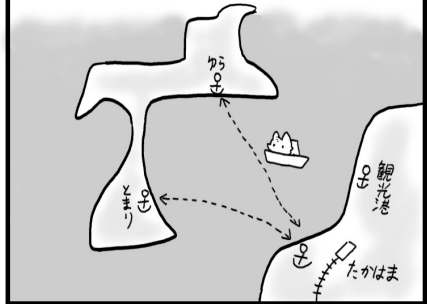
急にフェリーにのりたくなった
そんな休日



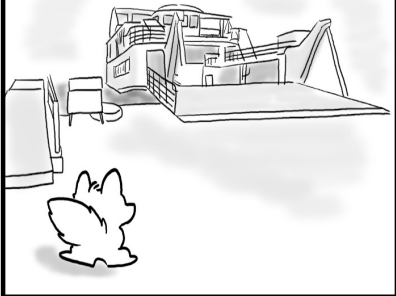
そんな時は伊予鉄を終点までのって
ここ、高浜へ!



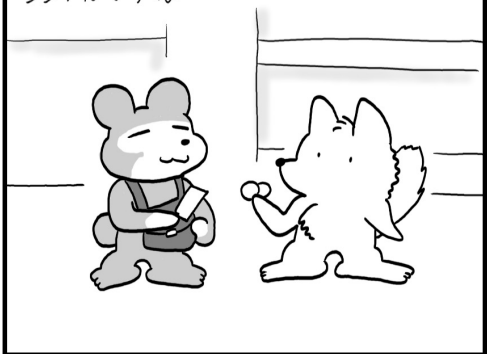
駅前すぐの高浜港からは
興居島に渡れるフェリーが出ています



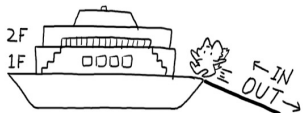
港は待合室と駐車場だけの
かんたんな造りで、徒歩と車は
同じところから乗り込みます



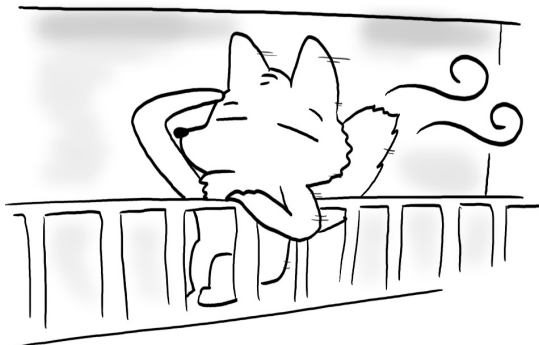
ぎゅーは船内で直接お金を払います
シリアルですね



この船のオススメポジションは
2階デッキ



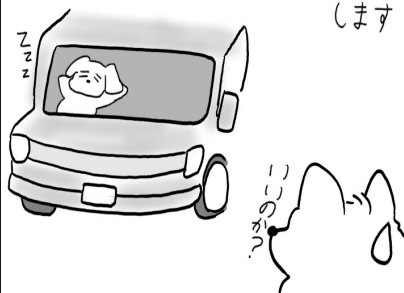
潮風にあたりながら
海を眺めてすごせます



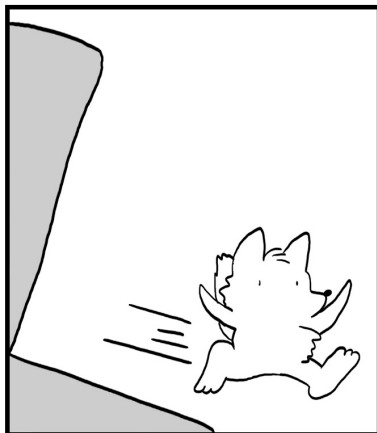
一階は屋内の船室になっています
…が、車庫甲板のすき間を
船室にしただけで正直せまいです

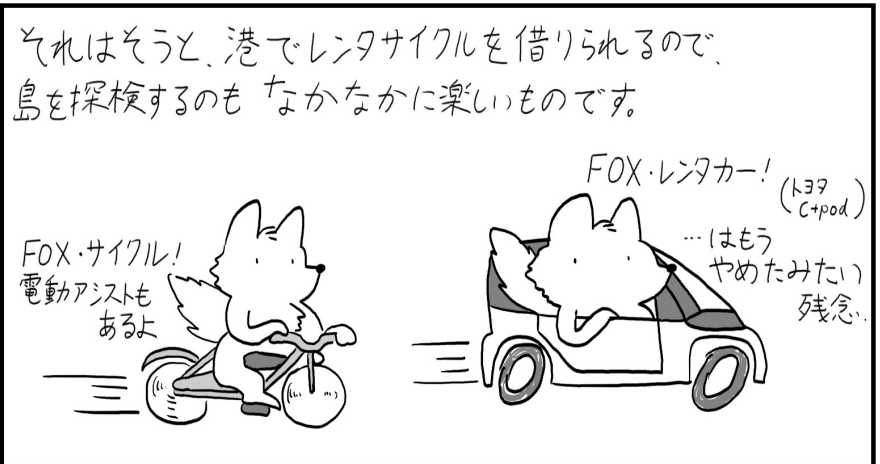
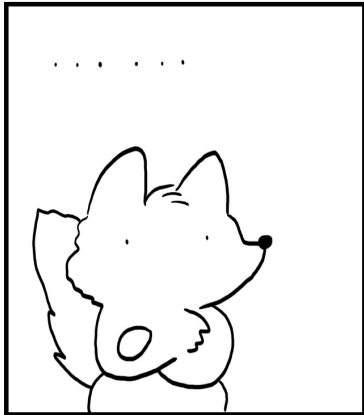


なので、地元の乗りなれた人は
自分の車の中で休憩していたり
します



乗船時間は10分ちょいなので
感覚的には
乗ったとたんに下船です





砂浜でお弁当を広げて
中島を眺めよう!



ごごしま

北側には峠超えた
アッ、アタウンがすぐそば!



崖と山に挟まれた
スリリングゾーン
レンタカーで通るのは
ちょっとムリだったわ!

由良～泊間は道も広くて
対岸に松山の街を見ながら
快走できるぞ!



…まあ



今日はとりあえず
港近くのお店でうどんでもすすって

興居島の
ひじき入り
うどん



港の前で
コーヒーのんで



そのまま
帰ろう…



株式会社ごごしま

松山市の主要な旅客港、松山観光港と高浜港の対岸に天然の防波堤のごとく浮かぶ興居島へは高浜港から発着するフェリーで渡ることが出来ます。フェリーは北側の由良港と南部の泊港それぞれと約1時間毎に往復しているので急に思い立ってもすぐに行くことが出来ます。



瀬戸内海の離島便仕様のフェリー

フェリーとは言ふものの、一般的にイメージされるカーフェリーよりは遥かに小さい、車両甲板に操舵席が跨ったようなかんたんな構造の船で瀬戸内海の離島便ではよくこのタイプの船が使われています。電車のように前後両方に推進できる構造なので、短い距離をピストン運行するのにちょうどいいんですね。



船室の様子

簡易な構造のせいもあって船室はこれだけです。ほぼ廊下ですね。前の写真だと中央部分が車両甲板上で、左側の入りらしきスペースの奥がこのような船室になっています。

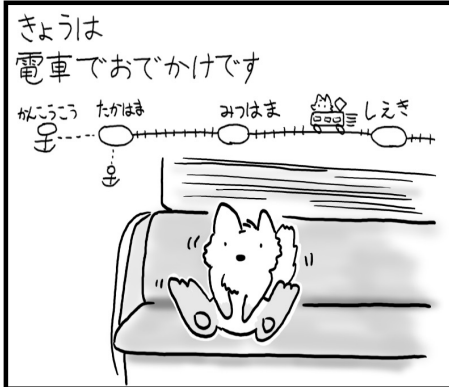
まあ乗船時間はせいぜい 20 分弱なので、雨天とか強風時でもなければ 2 階のデッキ部分にいたほうが快適だと思います。

島に上陸したところで正直な所観光するような場所は無いのですが、天気がいい日は港でレンタサイクルを借りてサイクリングするのがおすすめです。2 つの港を結ぶ東岸の道路は整備されていて快適に走ることが出来ますし、体力に自信が有るなら山越えて西側まで出てみるのもいいものです。

以前は小型 EV の宣伝目的かトヨタの C+POD が貸し出されていたのですが、いつの間にかやめてしまったようです。

大型船舶が入れなくてガソスタが設置できない島に電気自動車は一つの解なのか？と EV 擁護論を展開しようと思ったのですが、C+POD ってブレーキに倍力装置が付いてないから下り坂だと死ぬほど危ないという島を走るには致命的な問題があるんですね……。

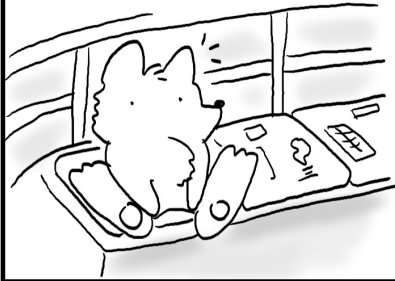
そんなわけで、今日はひとまず由良港周辺をうろついてうどん食べたりコーヒー飲んだり、「何もないがある」を堪能して帰ることにしましょう……



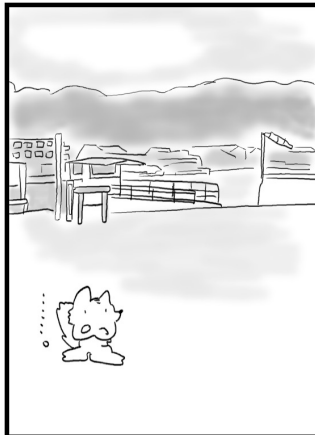
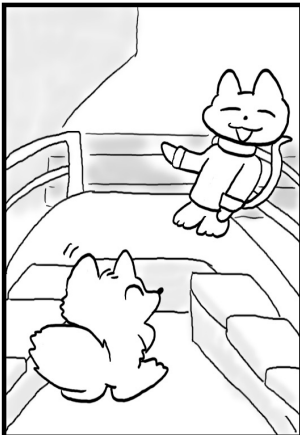
フェリーもいいけれど
たまには小さな舟で静かな海を渡るのも
いいよね…



座席もかんたんなベンチに
座布団が置いてあるだけの
シンプルなものです



…わかりやすいけれど
絵面がシュールすぎる……



松山市道2号線「三津の渡し」

三津浜港の東側にあたる三津地区と、対岸の港山地区を隔てる湾を結ぶ渡船で松山市が運営しています。ありがたいことにこの渡船は市道扱いで無料で利用することができます。この漫画では港山地区側から渡っています。

ちなみにこのあたりから梅津寺公園の海岸沿いは1998年の実写映画、2024年のアニメ映画「がんばっていきまっしょい」で舞台になった場所でもあり、アニメ映画公開中はタイアップで聖地巡礼のスタンプラリーなんかもやっていたみたいです。伊予鉄の三津浜駅、港山駅には今でも映画の看板がかかっています。



映画「がんばっていきまっしょい」の看板 (伊予鉄三津浜駅構内)

港山駅前で営業中の喫茶店「ソフトタイム」は作中でもボート部員たちが集まる喫茶店で、三津浜焼きが名物です。ちなみに三津浜焼きというのはうどん、もしくは焼きそばの上に薄めの生地を乗せたもので松山焼きとか広島焼き…いやなんでもないです。

ともかく美味しくいただいて腹ごしらえを済ませたところで住宅街の細い道を通り、今回の目的地「三津の渡し」に向かいます。



三津の渡し

現在では知名度も上がって松山の観光スポットの一つになっていますが、地元の人向けに運行している公共交通なので簡素な渡し船で基本的に徒歩のみ、自転車も2台くらいなら載せられるくらいです。決まったダイヤはなく、行けば乗せてくれるし対岸にいる場合は呼べば来てくれます。

漫画の中の謎のイラストは座席のクッションに書かれているイラストで、緊急時はこのクッション自体を抱えて海に入れば救命胴衣の代わりになるという説明なんですね。実際、湾内で静かな海なのでこれくらいの浮き具で十分時間が稼げるのと、周囲は漁港なので即救助できるということなのでしょう。

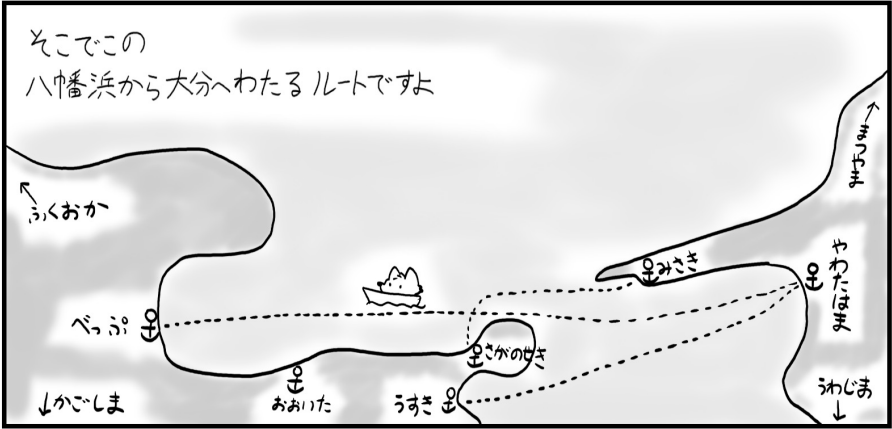
そんな穏やかで静かな船旅もわずか50mほど、2分程度で終わってしまいます。

ここから古風な雰囲気が残る三津の町並みを歩きつつ、三津浜港から山口県の柳井へと向かうフェリーで旅立つのも楽しいのですが、今回は大人しく伊予鉄の三津浜駅から電車に乗って帰ったのでした。

九州に
いきたい



しかし観光港～北九州のフェリーは
すでに
廃止されてしまった…
(2025年6月)



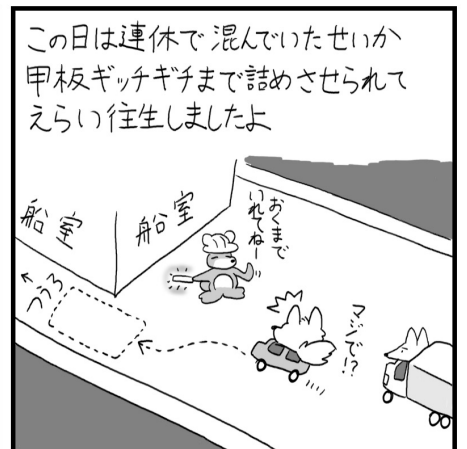
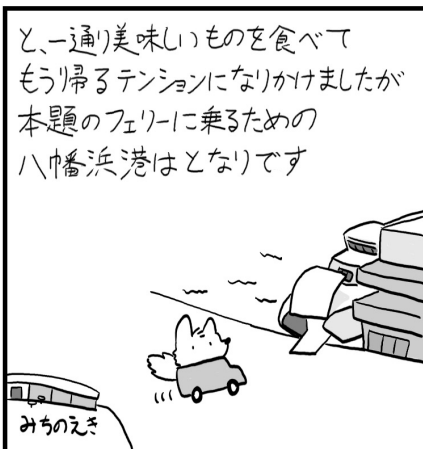
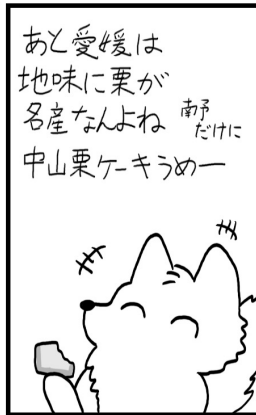
八幡浜は高速から港までの道のりが
イマイチよろしくないの
松山からだと なかなか
行く意思が固まらないのが難です…



特に冬季は雪とか凍結の規制が
急に入ることだって
予定が立てにくいし…

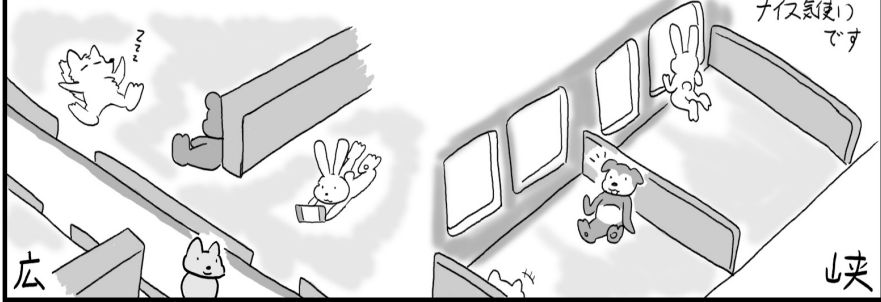


松山エリア内だけなら
冬タイヤが
使わんし



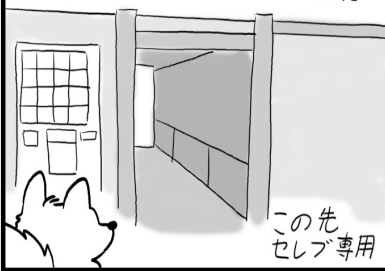
この船は害と最近(2014年)の船ですが、個室重視の最近のトレンドに反してカーペット敷きの大部屋が大部分を占めています。

その上で部屋を区切る仕切りの広さを2種類にして少人数グループや家族客にも対応する



夜行便の運行もあるのでベッド付きの個室もあるにはあるようです

VIPルーム
みたく
なりました

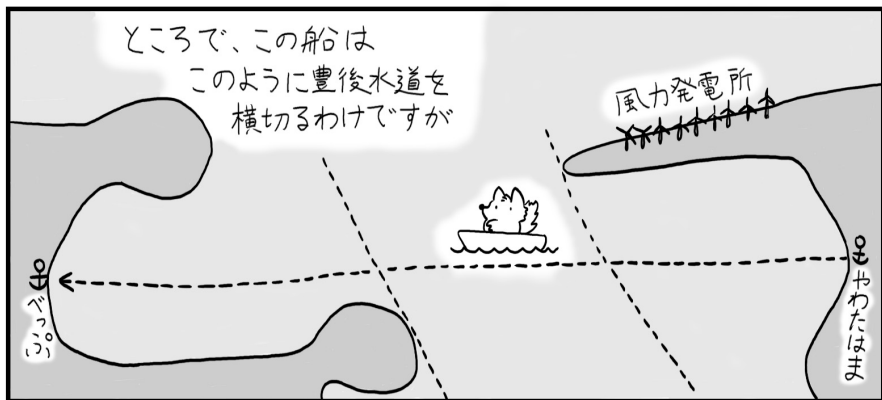


ロビーには売店があるんですが、それとは別にうどん屋さんが営業してるのはこの規模の船ではちょっと珍しいなと思いました



船内で食べるあつあつのうどんでもよかったなあ

八幡浜 港名物 たこいなり弁当



宇和島運輸フェリー 八幡浜から別府に行こう

愛媛県の西側に飛び出た佐多岬…の根本にある八幡浜と大分県の別府を約3時間で結ぶフェリーです。1日6往復、うち1往復は夜行便というダイヤだけみると便利そうなのですが、いかんせん愛媛側が高速からちょっと離れているのと冬季は積雪や凍結で規制されることがよくあるので、松山民が旅行で利用するには躊躇する面があります。



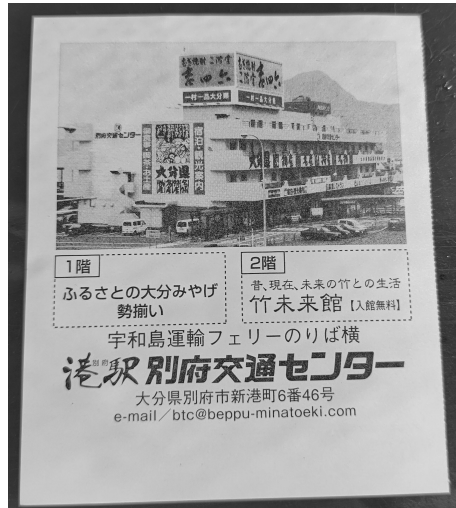
やたらと詰め込まれた車両甲板

この日は春先で幸いそのような規制もなく天気も良好だったので観光での利用者も多かったせいか、車両の積み込みはギッチギチでこの有様でした。本来の車両スペースは左の床面に線が惹かれている部分のみのはずなのですが、右端手前に見切れてる私の車とその後ろにある車は本来の駐車スペース外であろう通路部分に押し込まれています。

この船は客席のほとんどがカーペットの大部屋になっています。昼行便がメインなので個室にしないのはわかりますが、椅子席すら殆どないのは最近の船としては珍しい傾向だと思います。フェリーではカーペットでゴロゴロしたい派の私としてはとても嬉しい船ですね。

船内にうどん屋さんがあるのを知らなかったので、港の売店でお弁当を買ってから乗りました。今回買ったのは八幡浜で捕れたタコを使ったおいなりさんの弁当です。調べたところでは汁無しちゃんぽんのお弁当があるようでと

でも気になっていたんですが、この日は残念ながら売ってませんでした……。



昭和テイストあふれる広告

上の画像はお弁当のレシート裏に載っていた広告です。国鉄時代の時刻表を思わせるレトロなテイスト、いいですね。ちなみにこの交通センターは翌日寄ってお土産を買いましたよ。大分銘菓ザボン漬けいいよね。

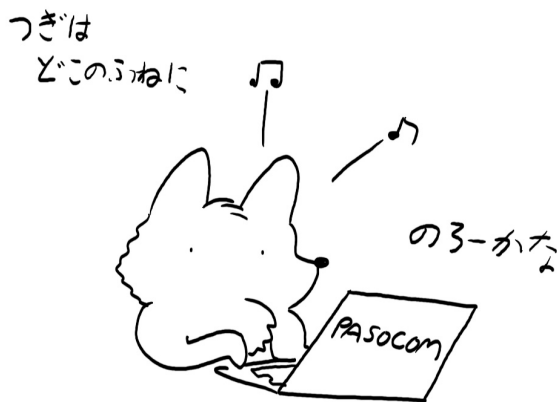
このフェリーに載った翌日には別府港から出航するさんふらわあに乗って大阪に旅立ったのですが、それはまたいつか別の本で語るお話ということで。

あとがき

普段の絵日記スレでは「」にフェリーをおすすめしているのですが、個別のフェリーのおすすめポイントを一冊にまとめるとなると思ったより差別化が難しいものでした。普段何も考えずに浮かれて乗ってるだけだな？というのがよくわかりましたね。

何かとよく乗る機会のある船やまだ一度しか乗ったことのない船まで書いてみると、最初は8ページくらいのうすい本の予定だったのですが予想以上にページが増えてしまったぞ？

この本で一人でも多くの「」やとしあきがフェリーに興味を持ってくれて、乗船レポを書いてくれたりすると大変嬉しく思います。北海道からフェリーで学園祭に参加とかどうですか？



— おくづけ —

2026-05-03 ふたば学園祭
きつね FOX (きつね旅行社) 発行
印刷 夢工房まつやま 様
連絡先 (X) @ehimefox